

僕が「豊太郎が相沢に感謝しながらも相沢を憎む理由」というテーマを設定した理由は、豊太郎が相沢を憎むようになった背景が気になったし、豊太郎が相沢に感謝しながらも相沢を憎むという矛盾に興味をもったからだ。

僕は、これから次のように論を進めていくつもりだ。まず初めに豊太郎がエリスをどれだけ愛していたかを述べ、次に豊太郎が相沢にとっても感謝していたことを述べる。そして、最後に豊太郎が相沢に感謝していると同時に、相沢を憎むという理由を説明する。

このレポートで僕が言いたい結論とは豊太郎が相沢に感謝したのは、自分の名誉を取り戻し、ドイツという異国から故国へ帰らせてくれたからであり、また、相沢を憎むのは、エリスを灰人にし、エリスと自分の関係を引き裂いたということである。

僕は、この「舞姫」において豊太郎は、本当に心の底からエリスを愛していたのだと思う。なぜなら、豊太郎の初恋の相手がエリスだからだ。P 264 L 11「余は幼きころより厳しき庭の訓へを

受けし甲斐に」やP 267 L 8「余は父の遺言を守り、母の教えに従ひ、人の神童なりなど褒むるがうれしさに怠らず学びしときより、官長の良き働き手を得たりと励ますが喜ばしさにたゆみなく勤めしときまで、ただ所動的、機械的人物になりて」などから、豊太郎は子供の時からドイツにくるまで勉強ばかりで、また、自分より立場が上の人に使われることが当たりまえだと思い、それに喜びを感じていたので、恋というものを全く知らなかった。そんな豊太郎が一目ぼれして初めて好きになったのがエリスだ。今まで人を好きになったことがない男が人を好きになったのだから、それは、とてつもない愛のはずだ。これはP 287 L 3「貧しきが中にも楽しきは今の生活、捨て難きはエリスが愛」からも分かる。何ヶ月もたったのに豊太郎はまだエリスを愛している。

また、豊太郎はエリスの見た目が好きであるのは、P 272 L 1「余に詩人の筆なければこれを写すべくもあらず。」P 274 L 14「彼は優れて美なり」などの豊太郎からエリスへの褒め言葉からも分かる。

また、豊太郎は相沢にとっても感謝している。なぜなら、豊太郎が職を解かれて、無職になったとき、豊太郎に職を与えドイツにいさせてくれたのが相沢であり、豊太郎を天方大臣に引き合わせ、名誉を回復し、本国に帰る機会を与えてくれたからだ。それに加え相沢はエリス家族が生計を営めるだけの資本も与えてくれたのである。

そして、豊太郎が相沢を憎むようになったのは、相沢がエリスを廃人にし、エリスと豊太郎の関係を引き裂いたからだ。P 297 L 9「余は初めて病床に待するエリスを見て、その変はりたる姿に驚きぬ。彼はこの数週のうちにいたくやせて、血走りし目は窪み、灰色の頬は落ちたり。」から

豊太郎は変わり果てた今のエリスの見た目が好きではない。また、P 298 L 11「治癒の見込み無し」

からエリスはもう元には戻らない。このことよりP 299 L 16 「エリスが生けるゝ幾たびぞ」からP

299 L 1 「大臣にゝ上りし」の間に豊太郎はエリスを好きではなくなった。

この根拠はP 299 L 2 「哀れなる狂女」と豊太郎がエリスのことを言ったからだ。精神が廃し、見た目も変わり果てた、エリスをそれでも愛しているのなら、「哀れなる狂女」と言うはずがない。エリスと言えば良いだろう。豊太郎はエリスを愛していないのだ。

以上のことより到達した結論は、豊太郎が相沢に感謝したのは、自分の名誉を取り戻し、ドイツという異国から故国へ帰らせてくれたからであり、また、相沢を憎むのは、エリスを廃人にし、エリスと自分の関係を引き裂いたからだということである。